協議資料

地域活性に役立ち、より開かれた社会教育をめざして～ポストコロナを見据えた事業展開に向けて～

１．社会教育を巡る課題の整理−君津地方社会教育委員連絡協議会研修会より−

（１）社会の状況

・コロナ禍の影響によりサークルの減退や消滅、地域活動の衰退など、地域の人のつながり合いや関わり合いの変質があった。（研修会開催要項より）

（２）デジタル技術の活用による環境の変化

・世界中とつながることのできる「どこでもドア」のようなものを手に入れた。（布施報告）

・対面とオンラインのハイブリッド方式、ブレイクアウトルームで少人数のグループワークを展開、手話通訳、要約筆記の積極的導入など、事業内容の変化があった。（講師報告より）

・障害のある方たち（移動・感染リスクのある身体障がい者、対面の苦手な障がい者）の参加の広がり、遠方（県外含む）からのオンライン参加など、参加者の広がりが見られた。

・オンラインで複数回の事前打ち合わせが可能になるなど、事業構築プロセスの変化も見られた。（講師報告より）

（３）課題提起−見えないコロナから見えてきたもの−

・オンライン活用により、これまで手が届かなかった対象などへのアプローチの可能性の広がりなどが生まれた一方で、車に乗れない、自転車に乗れないなどで公民館まで来られない人など多様な人がこの地域に暮らしていることに想像力を働かせることが重要ではないか。（柴田報告）

・デジタル社会の中で、幅広い世界の情報、知恵を地域に生かせるか、生かしてきたのか。また、社会参加の仕方の変質などがある中で、地域の足元を見つめ、例えば停電時にも「つながる」地域をどう創るか、創ってきたのかという問題が見えてきた。「非常時・困難な状況」だからこそ力を発揮する公民館とはどのようにあるべきか、これまでの日頃の社会教育を振り返りながら、その解決に向けた取組を進めていくべきではないか。（布施報告）

・課題（地域課題）とは、「ありたい社会像と現状との差異」であり、その課題を解決するために行う学習や活動を社会教育ととらえることができる。私はありたい社会像を「多様性を認め合い、互いが支え合い、誰もが取り残されることのない、持続可能な地域・社会」と考えている。コロナ禍とオンライン活用という要素が加わった中で、今日における、課題解決のためにどのような内容・方法の社会教育活動が必要か考えたい。（講師報告）

【研修会の概要】

・１２月２３日（金）に君津市周西公民館で研修会を実施、２３名が参加した。

・研修会は、コロナ禍によって「学びの機会」が大きく揺さぶられる状況を経験した中で、改めて、いま必要な社会教育のあり方について考えるために、君津市からの課題提起、社会教育先進地である長野県の取り組みについての講話、参加者によるグループディスカッションを実施した。

協議資料
地域活性に役立ち、より開かれた社会教育をめざして～ポストコロナを見据えた事業展開に向けて～

２．君津市社会教育機関の特徴的な取り組みより

（１）各機関の社会教育実践

・学校を核とした地域づくり、地域と共にある学校づくり（生涯学習文化課）
・身近な範囲でのつながりや関係性を見つめなおす取組。（君津中央公民館）
・コロナ禍での制約が続くサークル・団体活動の支援（八重原公民館）
・外国人住民の生活支援、地域参画のきっかけづくり（周西公民館）
・障がい者の生涯学習推進、共生社会づくり（周南公民館）
・地域団体と連携した学習の機会づくり（小糸公民館）
・多世代交流の機会づくり（清和公民館）
・史跡や伝説、自然、生活文化等の地域資源を生かした地域づくり（小櫃公民館）
・デジタル社会への対応（上総公民館）
・現代社会に対応する新たなサービスの展開（中央図書館）
・地域固有の題材を活用した地域のアイデンティティを高める取組（久留里城址資料館）

（２）各機関の課題意識

・活動を通じたつながりづくり
・ＩＣＴの活用にあたっての機器整備状況、職員のスキルへの依存
・参加者への情報発信、ニーズの把握
・参加者の交通手段の課題（アウトリーチ型学習の可能性）
・学習機会の継続性、発展性

３．協議の視点

①各社会教育機関の成果と課題、実践の広がり、深まりといった視点も踏まえた評価

②コロナ禍とオンライン活用という要素が加わった中で、今日における、課題解決のためにどのような内容・方法の社会教育活動が必要か

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：　生涯学習文化課

分　　類	コミュニティ・スクール推進事業
事業名称	周西南中学校区地域学校協働本部
実施日(期間)	令和４年４月～
目的・ねらい	生涯学習文化課では、学校運営協議会と地域をつなげる仕組みをつくろうと地域学校協働本部の立ち上げの支援を図り、５月１４日に設立総会が実施され活動が始まった。 月例会に出席し、協働本部の主体性を尊重しつつ、助言等を行っている。
対　　象	
回数・延べ参加人数	
周知方法	
事業概要	地域学校協働本部は、学校運営協議会の協議に基づき、地域と学校が連携、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくために、本部活動、学校支援部会、地域交流部会、広報部会を置いて、それぞれ取り組みを進めている。 小中学校の木の伐採や環境美化、地域住民と子どもたちについて語り合う「しゃべり場」などに取り組んでいる。 協働本部の話し合いの様子 環境美化活動（学校敷地の木の伐採）
成果・課題	成果 学校を核とした地域づくり、地域と共にある学校づくりを目指すための第一歩を踏み出すことができたことは大きな成果である。 また、設立後、コロナ禍で活動を進める難しさはあるものの、いま、できることに工夫をしつつ、取り組みを進めることができていることも成果である。 課題 協働本部の認知度をどのように高めていくことができるかが課題になっている。また、取組を通じて、地域の人のつながりづくりにどのように取り組んでいくことができるか引き続き工夫を図っていく必要がある。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：　君津中央公民館

分　　類	コミュニティ活性化事業
事業名称	第５８回君津中央公民館文化祭 特別企画「超ご近所検定　半径数キロウルトラクイズ王決定戦」
実施日(期間)	令和４年１１月３日（木・祝）小学生までコース（午前１１時から１２時まで） 年齢無制限コース（午後２時から３時まで）
目的・ねらい	みんなで集まる形式としては３年ぶりの開催となる文化祭のメインテーマ「これからにつながる第一歩」のもと、「一歩外に出られる・誰かとつながれる機会の再生」を今年の目的に掲げ、特別企画を実施した。 特別企画は、目的に沿い、子どもから大人まで誰もが楽しめるものにするべく、君津中央公民館対象エリア（＝ご近所）にこだわり抜いたクイズ大会を実施することにした。
対　　象	地域住民等
回数・延べ参加人数	1回 小学生までコース　参加者３６名（会場３５名、リモート１名） 年齢無制限コース　参加者４８名（会場４０名、リモート８名）
周知方法	自治会回覧、ポスター掲示
事業概要	年齢で参加コースを分け、会場、リモート参加できるハイブリッド形式で実施した。 地域資料や取材をもとに、地域の歴史や偉人などのほか、普段目にしている建物や踏切など身近なものを問題にした。クイズを通じて、普段何気なく見ているまちを改めてみつめる機会をつくることで、ご近所の良さに気付き、「誰かに話したくなる」、そのような問題作りに努めた。 クイズは４択クイズと○×クイズとし、参加者が最後まで楽しんで取り組めるように工夫を図った。
成果・課題	成果 実行委員と職員が多くの会議を重ね、丁寧に企画を作り上げることができた。 また、コロナをきっかけに、身近な範囲でのつながりや関係性をどのように意識するのかという課題に直面した中で、「ご近所」という極めて限定的な題材をテーマに掲げ、実行委員もが楽しく地域について触れ、当日１００名近くの参加があったことが成果である。 課題 映像編集や機材など、一部職員に負担がかかる場面があった。また、クイズを通じて得たつながりを今後の様々な実践にどのようにつなげていくのかについても課題であると感じている。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：　八重原公民館

分　　類	コミュニティ活性化事業
事業名称	第２６回八重原地区ふれあい文化祭
実施日(期間)	令和４年１１月１２日（土)・１３日（日）
目的・ねらい	地域住民、学校等、公民館利用者及び主催事業参加者の学習・文化・スポーツ活動の発表・交流の場として開催し、地域文化の発展と地域づくりに寄与する。
対　　象	地域住民等
回数・延べ参加人数	1 回 約 2,700 人
周知方法	自治会回覧、ポスター掲示
事業概要	メインテーマ「輝け八重原！はばたけ未来へ！」サブテーマ「4 年ぶり地域の人と元気な出会い」を掲げ、台風、コロナ禍による中止を経て 4 年ぶりの開催となった。 ◆作品展示・活動紹介　〔参加団体１２〕 サークル、地域内幼・保・小・中・特支の作品展示、自主事業活動紹介 ◆催し物〔参加団体５〕 ◆音楽・芸能発表〔参加団体２０〕 ◆映像発表〔参加団体１２〕 コモンスペースにてモニターで上映 ◆その他 探訪クロスワードクイズ ふるさとかるた・廃油石鹸販売 消防団車両展示
成果・課題	成果 コロナ禍での制約が続くサークル・団体活動を支援するため、また、発表・催し物への参加が難しいサークルの参加を保障するために、映像での発表を募り、サークル・団体自身が用意した映像の他、職員が活動状況等を撮影、編集した映像を館入口近くのコモンスペースで上映し、多くの来館者に観てもらい、好評を得た。 課題 撮影・編集機器、ソフトなどの一部を職員の私物に頼る状況にあり、継続して実施できる保障がない。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：周西公民館

分　　類	課題解決学習推進事業
事業名称	学び直し支援事業「日本語ひろば」
実施日(期間)	令和４年７月～３月
目的・ねらい	君津市総合計画　多文化共生「あらゆる国々の人にとって住みやすいまちづくり」 ・外国人住民と、日本人住民がともに学び、活動し、交流を深める場。 ・外国人住民の生活支援（生活に必要な学び、会話上達）、地域参画のきっかけづくりとして。
対　　象	主に君津市在住・在勤・在学の外国人とボランティア
回数・延べ参加人数	全７回 １２月まで延べ３４名参加（ボランティア入れず）
周知方法	チラシ配架、国際交流協会、民間日本語学校、地元企業等に配付
事業概要	・令和３年度、ボランティア養成講座として「多文化共生のまちづくり講座」実施、３５名が参加。 ・６月にボランティアを組織、企画会議を実施 ・７月から１～２か月に１回実施 内容：茶道体験、軽スポーツ、書道体験、防災学習、海苔巻きづくり、お花見 9/3 防災学習 ＊現在１５名のボランティアが交代で各回参加。 ＊参加者はベトナム、フィリピン、スリランカ、ミャンマー、タイなど毎回様々。就労、留学の方が多い。 ＊体験の後に交流の時間を持つようにしている。 例：海苔巻きづくりの後に、「好きな食べ物」でトーク 10/2 書道体験
成果・課題	成果 ・関連団体・機関、企業等との協力体制を作ることができた。 ・参加者からは「楽しかった」「また参加したい」と概ね満足度は高い。 課題 ・まだ常連の参加者になってもらえるまでには至っていない。ニーズを掴むのが難しいが、為になる・また来たいと思える内容を目指したい。 ・車を持っていない参加者が多い。他の施設等で実施することも検討したい。 ・周知方法を広げる。Facebook（Twitter より使うらしい）なども活用したい。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：周南公民館

分　　類	課題解決学習推進事業
事業名称	学校卒業後の障害者の生涯学習支援事業「モルック体験会」
実施日(期間)	令和4年10月13日（木）　　会場：たびだちの村
目的・ねらい	障害者が自身の生活地域で生涯にわたり学び続けることができる環境を整え、共生社会を推進する。 ①新しいスポーツを体験し、体を動かすことを楽しむ。(参加者) ②地域の施設と公民館が連携し、障害を持つ方の学習機会の場作りに取り組む。(主催)
対　　象	たびだちの村の利用者
回数・延べ参加人数	参加者：10名　他スタッフ等9名 （事前学習会：リーダー層向モルック体験会：令和4年5月15日(日)37名参加)
周知方法	たびだちの村を通じてお知らせ
事業概要	コロナ禍以降の地域との繋がりや活動の再活性化を検討する中、千葉県教育委員会「学校卒業後の障害者の生涯学習事業」の打診を機に、地域の様々な機関や人々との関係の再構築を目指して取り組んだ。 事業実施にあたっては、周南地区にある障害者施設「たびだちの村」と連携。施設側でも地域外との交流機会や利用者の運動機会の減少が課題となっていた。 そこで、11月に周南地区内で開催される「第1回ふれあいスポーツ大会」への参加を視野に、競技種目であるモルックの体験に取り組んだ。 講師は君津モルック協会に依頼し、ゲームの基本ルールや投げ方などについて指導を受けた。その後、施設利用者と施設スタッフ、運営側スタッフの2グループに分かれ、それぞれ練習、ゲームを体験した。当日は雨天だったため、たびだちの村の部屋を借用して実施した。 参加者から「楽しかった」「またやってみたい」という感想を頂いた。また、たびだちの村職員からは「コロナの影響で外部から講師を招く機会が減っていたので、このような機会があるのは嬉しい」「手足が自由に動かせない利用者もいるので、そういった方たちも楽しめるものがあれば、ぜひ参加したい」という感想を頂いた。
成果・課題	成果 ・地域の施設との関わりの再構築につながった。 ・様々な障害を持つ方の生涯学習について、公民館としてできることは何かを模索するきっかけとなった(次年度も継続)。 課題 ・自宅にいる障害を持つ人のニーズ把握、情報発信、交通手段の確保。 ・地域の中での学びの場づくり（例：公民館定期利用サークルに対して、障害者の生涯学習への理解や参加を促す投げかけ等の必要性)。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：小糸公民館

分　　類	青少年教育事業
事業名称	チャレンジスクール
実施日(期間)	令和４年９月１８日（日）～令和５年２月１９日（日）
目的・ねらい	学校や家庭では体験できないことに挑戦し、参加者同士が交流を図る中で協調性を養う。小糸公民館と小糸地区青少年相談員の共催事業として実施。 担当職員１名では行えない取り組みを青少年相談員と連携することで、内容の充実や細部に目の届く、より細やかな事業運営を行うことが出来る。 公民館一部休館中の状況を考慮し、野外活動、旧小糸小での活動など公民館を利用しなくても行うことができるよる工夫した。
対　　象	小糸小学校３年生～６年生
回数・延べ参加人数	全５回　３４名（３回実施）
周知方法	チラシ
事業概要	第１回　ペットボトルロケットを飛ばそう　→　雨天により中止 第２回　ディキャンプで楽しもう カレー作り、モルック大会 夏休みのコロナまん延により、子どもキャンプを中止したため、子ども達の希望と青少年相談員の野外活動のスキルアップも目的に、チャレンジスクールで代替え的にディキャンプを行った。 第３回　ペットボトルロケットを飛ばそう 一部参加者の母校でもある旧小糸小を活用し、事業を行った。
成果・課題	成果 活動場所などに制限がある中で、可能な範囲で工夫して、事業を行えたことは成果であった。 新たに委嘱された地区青少年相談員と連携し、事業に取り組めたことも成果として大きい。 課題 急な変更（コロナ等による中止）にも対応できるよう、より連絡体制を密にしていきたい。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：　清和公民館

分　　類	課題解決学習推進事業
事 業 名 称	高齢者学級
実施日(期間)	令和４年１１月２２日（火）
目　的　・ ね　ら　い	レクリエーションスポーツを通じて競技を楽しむとともに人間関係を深める。地域の高齢者と小学生との交流を通してお年寄りに対する尊敬の念や親愛の情を深めるとともに、高齢者の健康維持につながるよう努める。
対　　象	清和地区在住６０歳以上の男女
回　数　・ 延べ参加人数	１回 ２３名
周 知 方 法	登録会員への参加募集用紙の配付
事 業 概 要	地元の清和小学校児童とグラウンドゴルフを行う。
成 果・課 題	約３年ぶりに開催した「多世代交流グラウンドゴルフ」に清和小学校児童、高齢者学級参加者など約７０人がプレーした。 コロナ禍で外出する機会も減少し、小学生との交流もあまりない状況が続いていたが、当日は晴天にも恵まれ、子どもも大人もいきいきとグラウンドゴルフを楽しんでいた。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：　小櫃公民館

分　　類	課題解決学習推進事業
事業名称	小櫃まるごと博物館構想事業
実施日(期間)	通年
目的・ねらい	本事業は、小櫃・上総地区公民館運営審議会意見書「『子ども、若者、高齢者など、誰もが地域で暮らし続けられるふるさとづくりに寄与する公民館事業』の実現に向けて」(平成３１年３月）を踏まえ、小櫃地区に点在する史跡や伝説（伝承)、自然、生活文化等の地域資源をもとに、丸ごと博物館にするいわゆる「エコミュージアム」実現のためのものである。 これにより、小櫃地区住民（元住民も含む）にとって郷土への誇りと愛着をもてる取り組みとする。
対　　象	地域住民のほか、小櫃地域を離れた方も対象
回数・延べ参加人数	動画６本作成（YouTube 総再生回数 1998 回視聴　＊本資料作成時)
周知方法	自治会回覧、君津市 HP、館内ロビーにて上映、小櫃学での紹介
事業概要	これまで小櫃地区で取り組まれている地域学習講座「小櫃学」、住民主体の長谷川ホタル谷フェスタ、おしゃべりウォークなどを基盤にしながら、ICT を活用することでオンラインとオフラインを有機的に結び付けていく。 ①地域資源の映像化→②君津市公式 YouTube チャンネルで配信→③史跡付近の看板に QR コードを表示し、現地で映像による学習ができるようにする 令和４年度作成動画（YouTube「＃小櫃まるごと博物館」で検索) ・ 長谷川ホタル谷フェスタ 2022：小櫃小３年総合的な学習の時間でも活用 ・ 小櫃の四季：地元写真家より定点撮影写真を提供 ・ 白山神社の神楽：コロナ禍で中止が続き神楽の担い手である青年会が解散した地区もあり、映像として記録し、復活への醸成作りを期待 ・ 舩塚山のサクラ：令和元年台風で倒木したサクラを写真スライドで偲ぶ ・ 白山神社古墳：「小櫃学」(10/16)で扱った題材を映像化。ドローン撮影 ・ 戸崎古墳群：「小櫃学」(10/16）で扱った題材を映像化。ドローン撮影
成果・課題	感染拡大の余波に左右されることなく、地域を散策し、現地での学習補助として小櫃まるごと博物館の動画が活用される仕組みを構築することができた。 事業の推進にあたっては、助言的立場の「構想推進員」と実際に運営を担う「構想運営員」の２段体制で運営を進めている。今後も「小櫃学」と連動しながら構想運営員の拡充を進めていく。 今後の展望として、ウィズコロナのなかでも徐々に復活していく地域行事等の映像記録化を進めていきながら、地域を歩くイベント「おしゃべりウォーク」(小櫃地区体育協会）での活用や観光資源の磨き上げに結び付けていく予定。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：上総公民館

分　　類	課題解決学習推進事業
事業名称	サークルリーダーＩＣＴ講習会
実施日(期間)	令和４年７月３１日（日）午前９時３０分から１２時
目的・ねらい	高齢化や役員の担い手不足、コロナ禍での活動自粛等を理由に、上総公民館の定期利用サークル（分館含む）は減少傾向にある。公民館サークルや地域団体の役員を対象に、サークル活動に役立つＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用方法を学習する機会を提供し、役員の負担軽減や、コロナ禍での対面を避けた活動の実施につなげることで、サークル活動の継続と活性化を支援する。
対　　象	サークル・団体の役員やテーマに関心のある方　定員 30 名
回数・延べ参加人数	１回　１２名（３月に第２回を実施予定）
周知方法	自治会回覧
事業概要	入門編 ＬＩＮＥアプリの使い方（友達登録・グループの作成等） 講師：きみぱそくらぶ（生涯学習交流センターＩＴ講習会協力団体） ・友達登録の方法 ・隣の人と友達登録 ・グループの作り方 ・２人のグループを作って練習 ・グループ通話 ・後始末（グループの削除、友達の削除など）
成果・課題	満足度調査では、90％以上が「大いに役に立った」「役に立った」と回答しており、ＬＩＮＥアプリのグループ機能を所属団体で活用したいとの回答があったことから、サークル・団体活動に学習成果を活用するための基礎知識の習得と気運の醸成はできたと考える。 今後、各団体でのＩＣＴ利活用を継続して支援するために、応用編や、入門編の復習（同じ内容を実施）等を検討していく。

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：中央図書館

分　　類	中央図書館「知の拠点化」推進事業
事業名称	電子書籍サービスの普及啓発事業
実施日(期間)	令和４年５月から令和５年３月
目的・ねらい	非来館で利用できる電子書籍サービス及び電子雑誌閲覧サービスについて、普及啓発を図る。
対　　象	一般成人。特に子育て世代や公共交通機関で移動する機会がある人、パソコンやスマートフォンの利用について活用に意欲のあるシニア世代等。
回数・延べ参加人数	家庭教育学級でのＰＲ　２回／スマホ講座でのＰＲ　７回
周知方法	市広報・ＳＮＳ（電子書籍アンケート）
事業概要	◆コミュニティバス車内及び高速バス待合室へのポスター掲示 ◆公民館で実施しているスマホ講座、幼児家庭教育学級での本サービスのＰＲ ◆電子書籍のコンテンツの充実を図るための市民アンケートの実施 （令和４年７月１日～８月２１日実施）
成果・課題	令和４年４月以降の電子書籍サービス新規登録者数・・・３４５人 （うち、スマホ講座での登録者数１６人）　(R4.12 月末現在) 令和４年４月～１２月の電子書籍サービス貸出点数・・・２，０２２点 アンケート結果を反映させた電子書籍コンテンツの収集。 ・アンケート回答者数：３３７人 ・令和４年度購入コンテンツ数・・・３０８点

令和4年度各社会教育機関の特徴的な取り組み

所属：久留里城址資料館

分　　類	企画展示事業
事業名称	令和４年度企画展「不思議な水の穴　-川廻し・二五穴・上総掘り-」
実施日(期間)	９月 13 日（火）～12 月 11 日（日）
目的・ねらい	水を導く「穴」が特徴の「川廻し」「二五穴」「上総掘り」は、全国的にもユニークな技術や設備である。展示は市制施行５０周年記念「名水サミット in きみつ」と同時開催して広く周知し、関心や理解を深める機会とした。 例年の企画展に共通する目的ではあるが、地域の資料や事象を調査・記録し、成果を展示・紹介することにより、地域のアイデンティティを深め、活性化が行われる際にはその基礎情報にできる事業を目指している。今年度の３つの個性的な水利用は、過疎・高齢化・農業の後継者等の課題を持つ地域のテーマとしても、意識して取り組んだものである。
対　　象	一般（成人向けの内容・表記）
回数・延べ参加人数	会期 75 日 入館者数 4,366 人
周知方法	広報きみつ、定例記者会見、資料館だより、ポスター、チラシ等
事業概要	展示は４つの単元（自然環境と地質・川廻し・二五穴・上総掘り）に沿って、写真・古文書・道具などを紹介し、併せて関連事業を行った。 感染症への配慮として、密集する展示解説を避けて公民館での座学の「出張解説会」を実施し、関連事業は屋外中心に実施するなど工夫した。 展示風景 川廻し見学会
成果・課題	１「川廻し」「二五穴」パンフレットの作成 学術・観光の両面から近年注目される２つのテーマについては、これまで概観できる資料がなかったため、今後の日常的な活用も踏まえたパンフレットを作製した。データでの公開やアクセスの整備は、関係者の意向や予算、業務状況を勘案しながら今後の展開としたい。 ２「資料館が遠い市民」への視点 感染症対策として出張解説会を君津中央公民館などで実施したことで、「資料館まで足が向かない」市民へ向けても企画展を紹介・解説する事ができた。一方で、実物資料の持つ豊かな情報を参加者が主体的に得ることは難しい。コロナ後の展望と課題が見えた解説会であった。